

みぞくちミニ新聞

発行元
みぞくち

購読無料
毎月発行

総社デニムマスク

就労グループも携わっています

新型コロナウイルスの感染予防のため、総社デニムマスク実行委員会がデニムマスクの製造・販売をしている。実はみぞくちの就労グループもその一端を担っている。それは、製造されたデニムマスクの郵送の段取り。全国から注文を受けたデニムマスクを、1週間に2千件弱発送している。文書で示すと簡単そうだが、これがなかなか手強い。宛名を印刷したラベルを封筒に貼る。封筒に注文数を間違えないようにデニムマスクを入れる。マスクには大・中があるため、その数を間違えてはならない。封筒を糊付けし封をする。糊は剥がれないように丁寧に筆で塗り、端まできちんと

貼り揃える。封筒が郵送できる規格の大きさに収まっているか、封筒の大きさを確認する。最後に総数を確認し、郵便局へもっていき

郵送してもらおう。

数の間違いがないように、作業の工程ごとに数の確認は欠かせない。この作業が7月頃まで続く予定。全国のデニムマスクを必要とする方々に、一刻でも早くマスクが届けられるよう、就労の皆さんは毎日真剣に取り組んでいる。

ちよっと一息・会えなくても気持ちちは繋がる

今年のゴールデンウイークは何かと寂しい休みとなった。国をあげての自粛生活、日常にも制限や自粛があらこちらにある。しかし、その努力も実って、現時点では緊急事態宣言も解除され、岡山県下においては感染者は0人。

これからは感染拡大の防止と経済活動の両立を進めていかなければなら

ない。ところで、この数か月、自粛生活も苦労はあるが、ちよっと馴染んできた気もする。スーパーやコンビニでもレジでは透明なバリアが施され、会計を待つにも距離を保って並べるよう足形が示されている。いわゆるソーシャルディスタンス。当初はとても違和感を覚えたが、毎日の事となると

見慣れた光景となった。また、楽しみ方も変容し、自宅でそれぞれに工夫した楽しみ方を見出している。

最近ではインターネットを駆使し、集まらなくても会議が進められる時代。所長は先般、家族と「オンライン飲み会」なるものを実施した。初めてのことが息子に教えてもらい、5つの離れた場所にいる家族たちの顔をパソコンで見ながら、それぞれの家で酒と肴を用意し、最近の様子やたわいのないことを話しながら2時間ほどを楽しんだ。直接会うことができなくても、酒を酌み交わす事ができなくても、気持ちちは繋がっていることが強く実感できた。皆さんも試してみてもいかがだろうか。「オンライン飲み会」。

フルーツ狩り?

5月2日、生活グループの皆さんは午後からイチゴ狩り。その日の活動の起案者は所長と森田サビ管。今年のうちこの出来はちよつと少なめ。みんなの口に入るかどうか不安がある。足りなければハピーズに買いに行く!と所長は決心していた。が、森田サビ管は「大丈夫です!」と余裕の笑み。この自信はどこから来るのか?さて、皆さん畑に行っ

て沢山イチゴを収穫しましょう。皆と一緒に行ってみる。イチゴ畑に何やらカラフルなものが??バナー?キウイ?みかん?リンゴ?パイナップル缶?森田サビ管のしゃれたサプライズだった。この日はイチゴ狩り+フルーツ狩りの楽しい午後となった。でも、みんな、畑の土の上でフルーツが出来るかと勘違いしな